

す。私自身、直接力にはなれませんが、実現されることを大いに期待しております。

〈現状〉

【重点施策】

全珠連の重点施策として、次の六点が挙げられました。

- (一) 珠算検定試験受験者の増加を図るため積極的な対策の推進
- (二) 若年層会員の入会対策を推進し組織の安定を図る
- (三) 小学校教育支援事業をより積極的に推進する
- (四) 公益法人の維持
- (五) 東日本大震災被災地域の東北三県に対する支援
- (六) 次期小学校指導要領改定に向けた活動の強化

この中で(一)と(二)については、私の僻案と期待を書かせていただきたいと思えます。

まず(一)については、ひとつの案として、学校教育機関との連携が有効ではないかと考えています。

たとえば、公益財団法人である日本英語検定協会が実施する「英検」は、高校や大学において入試優遇や単位認定があります。珠算検定も同様の優遇がある学校もあるようですが、それほどまでに浸透はしていな

いように感じています。

珠算検定合格を目指すことで得られるものは大きいですが、さらに高校・大学進学においても実益があるというメリットを打ち出すことができれば、受験者数増につながれるのではと思います。そのためには珠算教育の効果、検定合格者が保有する高い学習能力について説明するなど、学校教育機関への強いアピールが必要です。

また(二)については、中長期的に珠算塾経営の基盤が確立できるようにPRを含めた教場対策事業を考えていきたいということでした。

私自身はこの三月に会社を退職し、そろばん教室専業としたので、収入面においてまだまだ不安の中にいます。今の時代に新規にそろばんの先生になる、教室をはじめるといふのはとても勇気が要ることだと思えます。(私の場合は妻の理解があったので、できたと思っています)

私が全珠連の会員になって感じているメリットのひとつは「勉強をする機会が一気に増えた」ということです。これに加えて、具体案とまでは言えませんが、全珠連会員になれば安心して教室を始められる、また指導・経営全般に関してもいつでも相談できるといったような環境がで

きればよいなと思っています。特に前者について、何らかの具体的取り組みを期待するとともに、私自身も会員勧誘活動に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

〈未来〉

【これからの全珠連】

梶川理事長は、公益社団法人として認可されたのはまだ出発点で、これをしっかりと維持していくことが大事で、かつ難しいことであるとおっしゃっていました。また、公益ではあるものの会員のメリットも大事であるし、検定試験改革が必要であると話されていました。組織としてこれから取り組んでいかなければならない直近の課題が提示された形です。

ところで「百年企業」という言葉をご存知でしょうか。これは起業から百年以上経過した長寿企業のことを指しています。帝国バンクの調べによりますと、百年企業の排出率(長寿起業数÷全企業数)の都道府県別のトップは京都府、その排出率は四%だそうです。全国平均が一・八%ですので、これはかなり高い割合です。全珠連も京都に本部を置く組織であるだけに、百年企業ならぬ百年組織となり得る可能性が高いと言え

なくもなさそうです。

この百年組織の実現のためには、全珠連の組織の基本理念である「自主独立」を堅持し、これまでに先達の先生方が築き上げた歴史を大切にす。また、時代時代にマッチしたスピーディーな取り組みの実行と、いい意味での組織の新陳代謝が必要であると梶川理事長のお話を聴きながら、私なりに感じ取ることができました。

まずは直近のひとつひとつの課題に対し具体的なアクションをしっかりと考えていける、そのような会員を目指していきたいと思えます。

三十年後は静岡協創立百周年、そして四十年後は全珠連創立百周年です。まだまだ先の話のようにも思えますが、きつとあつという間です。その日を笑顔で迎えられるようにこれからも精進して参ります。そのためには本意ながら(?)お酒の管理も必要かもしれません。

今後とも、先生方には色々ご迷惑をおかけするかもしれませんが、叱咤激励のほどどうぞよろしくお願ひ申し上げます。